

むきぼんだ花だよ

11月

2015. 11. 07



サンカクヅル

「人声のするや飛び立つ鴨の陣」

もど



サネカズラ

いろいろな色のまあるい実



サルトリイバラ



リュウノヒゲ

色に魅せられて

薄い紫の美しい実をつけ、まるで小さなガム菓子のような形容しがたい不思議な色合いです。

花は初夏に薄紫花を小さなかたまり状に咲かせ、先端だけでなく節にも花芽がつくので実つきもよいです。葉は緑で柔らかい印象ですが、日当たりのよい場所にある葉は硬めな感じになります。株が大きくなると枝垂れます。

果ムラサキシキブ(紫式部)とコムラサキ(小紫)の違い

紫式部は濃い紫色の実をたくさん付ける植物です。そのことから、紫重実(むらさききみ)と呼ばれていましたが、それが変化して紫式部(むらさききぶ)になったのが和名の由来です。

●ムラサキシキブ



●コムラサキ



果実の付き方

- 1.ムラサキシキブは比較的疎らに付くのに対しコムラサキは果実が固まってつく



●ムラサキシキブの花



●コムラサキの花

葉柄と花柄(花が集まった枝)の位置

- 2.ムラサキシキブは近接しているのに対しコムラサキは2、3mm離れたところから出ている



葉の傾斜

- 3.ムラサキシキブは全葉にあるが、コムラサキは上半分にしかない



花言葉 聡明 上品 愛され上手 知性 賢さ
別名 ミムラサキ コムラサキ
科・属名 シン科
原産地 日本・中国・朝鮮

会員の投稿

が ん ぶ ろ 雁 風 呂

最近ようやく漱石を読み終え、つながりで漱石の俳句の本を読んだ。

その中に雁の句があり、その説明には「雁は秋にやって来るとき、海上で翼を休めるための木片をもって来る。春に戻るとき、それを銜えて行くのだが、その半年の間に病死や撃たれるなどし、命を落とした雁の数だけ木片が寂しく上陸地点の海辺に残る。昔の日本人はそれを哀れみ、木片を拾い集めて風呂を焚き、旅人などを入れてもてなし**不運な雁の供養をした**」と、私はその時、この話は若い頃聞いて、美しく切ない話と記憶したことを思い出した。

その話を歩く会のメンバー、Kさんにすると、二日程で大量の資料を郵送して下さいました。

この雁の話は**1974年**のサントリー「角」のCMとして男声のナレーションで流れたそうです。別の資料には、地元の人々はテレビのCMが流れるまで雁風呂を知らなかった。そもそも雁にそんな習性などなく、世の中には知らぬ方が 良い話もあると言うことか、ともあった。

また、中国の本には渡りの雁が海上で翼を休めるため、葦を銜えて旅に出る「あしをふくむかり」と言う伝説があるとも。

春の季語ともなって、ここまで辿り着いた雁風呂を知らぬ方が良かったではなく、私のような早とちりで思い込みの激しい人が、優しいお話を作り上げてくださったことに、私は嬉しく思います。

M・F

雁 (正式名ガン 異名カリ)

・名の由来 雁の鳴き声から

室町時代に呼び方がカリからガンにか変わったようだ

・種類 マガン・ヒシクイ・カリガネなど

・カモ目カモ科の水鳥のうち、白鳥を除いた体の大きい一群の総称

・特徴・雌雄ともに地味な色 水辺に住む

・飛ぶときはV字形などの編隊を組む



洞ノ原地区と妻木新山-仙谷地区の間の谷筋に沿って散策しました。谷の奥にはひっそりとした沼があり、多くの渡り鳥が羽を休めていました。



悟られぬよう抜き足、差し足で近づいたのですが、僅かな気配を察知して鳥たちは飛び去ってしまいました。あれは鴨だったのでしょうか、それとも雁だったのでしょうか。谷筋の道も整備したらカップルでの散策に似合いのスポットになりそうですが、鳥たちの楽園をそっとしておいてあげるべきでしょうね。



★むきばんだを歩く会★

- ・指導：鷺見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- ・毎月第1土曜日午前9時30分～正午
- ・入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- ・問い合わせ：むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」